

企画から販売まで

「ものづくりで幸せをつくる」

試作可
小ロット



幅広い仕事に対応できる従業員たち

業務内容 設備拡充で商品開発を トータルサポート

「モノプラス」は商品開発をトータルに支援する会社として、試作品の製造を主力にプロダクトデザイン、設計や商品開発コンサルティングなど顧客の開発コストを下げるための事業を展開している。

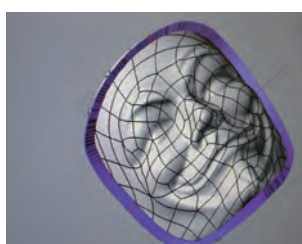
サラリーマン時代に産学連携の製品開発などに携わった大音和豊社長が平成20年、大阪市北区で同社を設立。設備を順次拡充してきた。大阪府大東市に移転した同25年には3Dプリンターや3Dスキャナーを導入し、スキニングと一部試作品の製造を内製化。同27年には（株）ワイズ（大阪府松原市）との事業統合にもなつて松原市に移り、樹脂加工と表面処理（塗装）を内製化した。それにより多様なニーズへの対応が可能となった。

強み 他社との差別化で 一貫対応の体制構築

企画から販売まで段階ごとのサービスを揃え、アイデアの発想支援からデザイン、設計、試作、量産までの一貫対応体制を整えている。特に塗装を内製化していることや、開発初期段階における形状確認用の簡単な試作モデル「ラフモデル」に対応できること、3Dデータの変更、修正のノウハウを持つことが強みだ。試作業界では顧客の図面通りに製作する企業が多いなか、大音社長は「データを作ったりデザイン、設計したりできる」と他社との違いを説明する。約200社の顧客には大手企業も多く、「安くて品質が良く、納期にも対応できるから」と選ばれる理由を語る。

人材育成 少数精鋭の多能工化で 幅広い業務に対応

同社のメンバーは役員を含めて7名であり、



3Dスキャンから3Dデータ作成



単品塗装・
デザイン検討
模型製作

大音社長は「この人数でこれだけ幅の広い仕事をやる会社は他にない」と胸を張る。キーワードは「多能工化」だ。データの作成、設計、加工など取り扱う仕事は多岐にわたるが、「これしかやらない」ということを社内にNGにしている」と強調する。

また、「ものづくりで幸せをつくる」という経営理念に賛同して入社した従業員は、その理念に基づき「何をすべきか」を常に考えており、年に1回、丸1日かけて社内全体でそれぞれの意見を出し合い、共有する研修の機会も設けている。

今後の展望 変化に応じ顧客への サービスへ転嫁

3Dプリンターの普及とともに、試作の仕事自体は縮小傾向にある。しかし、設計、デザイン、3Dデータ作成や塗装などの工程は今後も需要があるとみており、同社はこれらに注力していく。またIoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）などで、商品開発の進め方も変わりつつある。こうした変化にも順次、対応していく計画だ。

「お客様の商品開発を効率良く進めるのが当社の役目。『モノプラスに相談したら儲かる商品ができる』と言われ続けた」と、顧客のコストやリスク削減のため、新たなサービスを展開していく。

当社の歴史



社名は「モノ」に何か「イコト」を付け加えるという意味です。+（プラス）するものは、時に楽しさであったり、便利さであったり、優しさであったりするかもしれません。ただ「モノをつくる」という視点ではなく、常に何か「イコト」を付け加えて世の中に発信できる会社を目指します。

代表取締役 **大音 和豊**さん

<https://www.mono-plus.jp/>

主な事業内容

試作品製造、プロダクトデザイン・設計、商品開発コンサルティング

主な取引先(納入先)

生活用品メーカー

- 住 所 〒580-0016 松原市 上田8-17-24
- TEL 072-335-9177
- FAX 072-246-9176
- 創 業 平成20年11月
- 設 立 平成20年11月
- 資本金 900万円
- 従業員 4名